

知識社会におけるマネジメントの開発

技能工芸学部 情報メカトロニクス学科

Isaka Yasushi
井坂 康志

教授, 博士(商学)



Key word ドラッカー, マネジメント, 中小企業, 顧客の創造, 強み, フィードバック分析

長期的かつトータルな成長回路の開発

分野 支援可能な分野

- ドラッカーの問いを用いた組織開発
- フィードバック分析による強みの探索と活用
- リーダーシップとフォロワーシップ開発
- イノベーションの種子としての「予期せぬ成功」探索

業績 研究実績・業績

- 「渋沢栄一とドラッカー」『別冊太陽 渋沢栄一』平凡社, 2020年12月
- 「ドラッカーの事業戦略論—マクルーハンからの示唆をめぐって」『ものづくり大学紀要』第9号, 2020年2月, pp.57-64
- 「戦後日本とドラッカー—産業界への影響を中心に」『ものづくり大学紀要』第11号, 2022年2月, pp.5-12

学会 学会・委員会

- 日本経営学会
- 経営学史学会
- 経済社会学会
- 石橋湛山研究学会
- ドラッカー学会(共同代表)
- 日本経営学会関連協議会(評議員)

事例 フィードバック分析を活用した組織への支援

1 マネジャー支援(企業, 非営利組織)

反復実践と振り返りによるフィードバックを意識的に行い, 学習者の能力開発が自然体で実現できるプログラムを設計(例: 東京都病院経営本部, 金沢青年会議所, 済生会病院)

2 強みの発見と開発

働き方改革など, 学習者固有のリズムとパターンに応じた強みの発見と開発に伴うプログラムを考案し, セミナー等で実施(例: LIXIL, 日本印刷産業連合会, 北海道大学技術研究会, ネクストワールド・サミット, 商人舎, 横河ソリューションズ)

3 フィードバック手帳の活用

フィードバック手帳を個や組織において実際に活用し, 日々の業務の中で目標達成への意欲と能力の習慣的な向上を図る(例: 都田建設, 税理士法人エナリ)



多田治氏(一橋大学大学院教授)との研究会
(ドラッカー学会壱岐大会にて)

保有シーズ紹介(設備, 技術, ノウハウ, 特許, 著書など)

設備 保有設備・ツール

1 ドラッカー研究(ウェブサイト)

Drucker Studies(初学者向けのウェブサイト)。「イノベーション」「マーケティング」「フィードバック」「時間管理」などの基本的な用語から解説することで, 学習者の動機の喚起と習得性の向上をはかる体系的なウェブサイトとした。

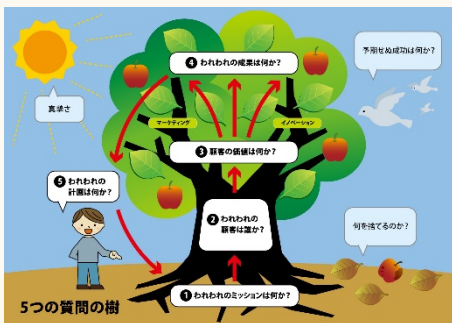


<http://drucker-studies.com/>

2 マネジメントの樹(教材)

イラストによって想像力を自由にはばたかせるマネジメント思考のプラットフォーム。専門用語の使用を避け, 自らの体験や価値観と重ね合わせていくコミュニケーションツールとして活用。(講義・講演等で使用)

<http://drucker-studies.com/>



一言Message

ドラッカーによるマネジメント上の考え方を紹介しながら, 「人」の中に眠る強みを見出し, 育てていくうえでのポイントをフィードバック分析を用いて深めていきます。

技術 技術, 著書, 特許

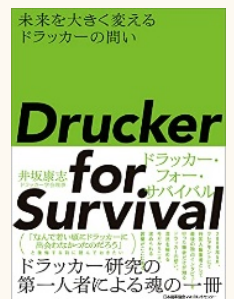
1 『自らをマネジメントする ドラッカー流 フィードバック手帳』かんき出版, 2016年

自らの強みを見出し, セルフ・フィードバックで自己成長させていく方法についての著書。手帳ツールとして実践することで, 自らのもつ強みを日々のフィードバックのなかで実践的に研ぎ上げていく。



2 『Drucker for Survival』日本能率協会マネジメントセンター, 2021年

ビジネスパーソンの中で, ドラッカーの経営学が根強い人気を保持していることを踏まえ, 個人や中小企業の業務遂行にあたって必要とされるマネジメントスキルや, 自ら考え, 判断, 行動する上で支援となる記述を多く提案。



3 『ドラッカー×社会学—コロナ後の知識社会へ』公人の友社, 2021年

コロナ後の知識社会において, 強みを生かして展開をはかり, 長期的に成果を上げていくための考え方や方法を多田治・一橋大学大学院教授との対話スタイルで詳述。

